

生産性向上支援訓練実施事例

シーヴィテック九州 様

《利用事業主情報》

【所在地】長崎県佐世保市
【事業内容】自動車用無段変速機（CVT）
 の金属ベルトの製造・販売
【従業員数】270名

《利用訓練情報》

【コース名】DXの導入
【訓練時期】令和5年5月
【受講者数】12名

利用事業主の声

当社は自動車用無段変速機（CVT）の要の部品である金属ベルトの国内唯一の専門メーカー（シーヴィテックグループ）です。

当社では、ITおよびDX推進をするにあたり、リスクリングによる社員のITリテラシー醸成とITスキルの習得が課題です。

まずはオープンコースで『RPA活用』を受講させていただき、受講者からも大変好評であったため、社内でのオーダーコース開催に向けてポリテクセンター長崎様や選定いただきました講師と、当社のIT推進レベルや受講ニーズをご相談しながら、カリキュラムを詰めさせていただき、実施に至りました。

訓練後は、カリキュラムに取り入れていただいた他社事例で、目指すDXレベルを具体化し、業務フローの見直しやデータのリレーション活用の重要性について、共通用語で会話が進み、効果を感じています。

また当初は、紙の使用量削減や書庫管理の工数低減が問題と認識されていたペーパーレス化が、紙（文字）をデータ化することがDXの第1歩であるという認識に変化し、システムづくりの意識が変わりました。

今後も本訓練で学んだことを基礎知識として、全員に浸透させ、IT・DXによる業務効率を加速させたいです。

受講者の声

本訓練を通じて、まずはDXの概念を理解し、自社のデジタル化推進の位置づけは、まだまだアナログからデジタル化への切替え途中（デジタイゼーション）であることを再確認しました。実行するための業務フローづくりなど、活動イメージを学習できたことも有意義でした。

また、ITによる業務の変革を起こすには、場合によっては部署をまたいで横串で取り組むことも必要だと学びました。訓練後、自部署の業務における上流・下流の関連部署との協業により情報連携を進めようと、システムの構想計画を開始しています。

今回の訓練で学んだことを参考に、将来の業務変革のイメージを持って、DXの第1歩であるデジタル化を加速させたいと思います。



企業外観



会社ロゴ